

4 刊行物

刊行物は、博物館関係図録、津山城資料集、築城400年記念事業関係書に分けられる。尚、「津山城～よみがえる郷土の誇り～」は、35,000部印刷し市内全戸配布された。また、「津山城だより」は、整備状況を一般市民に適宜お知らせするため、毎回2,000部を作成し啓発の一翼を担った。これはかなり好評を博した。

以下、主な刊行物は次のとおりである。



津山城だより、資料編、備中櫓復元整備基本計画書

- 『津山藩と小豆島』 津山郷土博物館 1998年10月
- 『津山城だより』 No.1～10 津山城整備推進係 1999年～2006年
- 『津山城資料編』 津山市教育委員会 2000年1月
- 『史跡津山城跡備中櫓復元整備基本計画書』 津山市教育委員会 2000年3月
- 『津山学ことはじめ』 津山市 2000年3月
- 『津山城資料編Ⅱ』 津山市教育委員会 2001年1月
- 『津山藩の江戸屋敷』 津山郷土博物館 2001年10月
- 『津山城資料編解説』 津山市教育委員会 2002年1月
- 『銀形意斎』 津山郷土博物館 2004年3月※
- 『津山城～よみがえる郷土の誇り～』 津山城築城400年記念事業実行委員会 2004年6月※
- 『素晴らしき津山洋学の足跡』 津山洋学資料館 2004年9月※
- 『戦国武将森忠政～津山城主への道～』 津山郷土博物館 2004年10月※
- 『津山松平藩とその系譜』 津山郷土博物館 2005年3月
- 『名勝旧津山藩別邸庭園(衆楽園)保存管理計画策定報告書』 津山市教育委員会 2006年3月

5 記録映像の作成

整備の主要事業は、やはり備中槽、五番門南石垣土塙の復元整備工事である。これらは、いずれも当時の工法で忠実に再現されることになったことから、起工から竣工までの各工程を映像として残すこととした。

また、津山城築城400年記念事業実行委員会では、『よみがえる津山城』を作成した。これはコンピュータグラフィックスにより往時の津山城を再現したもので、監修は史跡津山城跡整備委員の鈴木充先生にお願いした。

尚、蛇足ではあるがこの作品は、全国地域映像団体協議会主催「全映協グランプリ2004中四国地区予選」で優秀賞を受賞した。他の2点は、備中槽の復元整備及び備中槽周辺整備工事の記録である。これらの映像は、備中槽内部に設置したモニターで常時公開している。

『よみがえる津山城』(DVD・VTR) 津山城築城400年記念事業実行委員会 2004年6月※

『蘇る備中槽—史跡津山城跡備中槽復元のあゆみ—』(DVD) 津山市 2005年3月

『史跡津山城跡—蘇る備中槽・備中槽周辺整備—』(DVD) 津山市 2006年3月



作製したDVD

6 機関会議の招致

この間における機関会議開催依頼については、一人でも多くの人に整備の状況を見ていただきたいとの思いから積極的に受け入れた。出来る限りの対応をさせていただいたつもりであるが、不備があった点についてはご容赦願いたい。開催状況は以下のとおりである。

第6回中・四国城館検討会

日 程 平成13年10月20・21日

場 所 津山市総合福祉会館

報 告

置塩城跡の発掘調査成果—第1次調査（平成13年度）の成果を中心として—

兵庫県教育委員会 山上雅弘

津山城跡の発掘調査

津山市教育委員会 平岡正宏

下津井城跡発掘調査の概要

倉敷市埋蔵文化財センター 藤原好二

城館出土の無軸焼締め播鉢について—備中松山城・岡山城出土資料の胎土分析—

岡山理科大学 京黒晋太郎・白石 純

岡山県奥津町久田堀ノ内遺跡の発掘調査概要

岡山県古代吉備文化財センター 弘田和司

鬼ノ城跡の発掘調査

総社市埋蔵文化財学習の館 村上幸雄

米子城跡の発掘調査—第33地点を中心として—

米子市教育文化事業団 佐伯純也

松江城と整備の歴史

松江市教育委員会 岡崎雄二郎

近年の城館調査状況（広島県）

吉田町地域振興事業団 新川 隆

四国における城館調査と研究の現状

高知県埋蔵文化財センター 松田直樹

平成15年度全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会中国・四国・九州ブロック会議

日 程 平成15年9月4・5日

場 所 津山郷土博物館

視察見学 史跡津山城跡備中櫓復元工事、発掘調査現場

第31回全史協中国地区協議会

日 程 平成16年7月22・23日

場 所 津山国際ホテル

講 演

文化庁記念物課文化財調査官 山下信一郎「近代遺跡の調査とその課題」

津山郷土博物館主査 尾島 治「近世城下町形成期の諸問題」

現地研修 本源寺、徳守神社、津山城跡、津山科学教育博物館、作州城東屋敷、箕作阮甫旧宅、城東むかし町家、津山洋学資料館

第30回全国遺跡環境整備会議

日 程 平成17年11月10・11日

場 所 津山国際ホテル

事例報告

総社市教育委員会課長補佐 谷山雅彦「鬼ノ城」

津山市教育委員会主任 平岡正宏「津山城」

高梁市教育委員会主任 亀山行雄「備中松山城」

シンポジウム 「復元建物をめぐる諸問題」

司 会 文化庁記念物課主任文化財調査官 小野健吉

パネラー 大阪市立大学教授 谷 直樹

文化庁記念物課文化財調査官 平沢 毅

事例報告者

現地研修 津山城跡、備中松山城跡、鬼ノ城跡



第6回会中・四国城館検討会



公立埋文協中国・四国・九州ブロック会議



第30回全国遺跡環境整備会議

7 講演・発表関係

外部講師の演題については、極力、整備事業あるいは近世に関するテーマでお願いすることとした。無理なお願いにもかかわらず、快く引き受けていただいた多くの先生方にお礼申し上げます。

また、津山城整備推進係内部講師も事業啓発の観点から時間の許す限り、地元等にも足を運び、依頼者の意に添うよう努力したつもりである。以下、講師と演題は次のとおりである。

【外部講師】

- 矢野和之 「史跡整備のめざすもの～津山城の保存と活用～」リージョンセンター 平成11年2月6日
- 渡辺 武 「大阪城と津山」津山市総合福祉会館 平成12年3月4日
- 三浦正幸 「津山城本丸の構造と御殿建築」津山市総合福祉会館 平成13年3月11日
- 村上幸雄 「鬼ノ城を掘る」リージョンセンター 平成14年3月2日
- 伊原恵司 「技術の発展からみる日本建築の特徴」リージョンセンター 平成16年3月20日
- 童門冬二 「盛り上がる江戸期の庶民」ベルフォール津山 平成16年7月4日※
- 小和田哲男 「戦国武将森忠政とその時代」ベルフォール津山 平成16年10月9日 ※
- 西ヶ谷恭弘 「城郭史上より見た津山城の構成」ベルフォール津山 平成16年12月4日 ※
- 島羽剛公二 「津山城備中櫓の木工事」リージョンセンター 平成17年3月26日
- 山下哲夫・工藤安代「史跡津山城跡コンピュータグラフィックスの製作過程」リージョンセンター 平成18年3月4日



津山市文化財調査報告会

【内部講師】

- 尾島 治 「斉民の加増願い」地蔵院 平成10年6月1日
- * 「津山松平藩の財政構造」岡山県立博物館 平成10年12月22日
 - * 「津山城本丸御殿の機能と構造」リージョンセンター 平成11年2月6日
 - * 「津山城の築城」津山郷土博物館 平成11年8月11日
 - * 「備中櫓の機能と構造」津山市総合福祉会館 平成12年3月4日
 - * 「津山の城と城下町」津山鶴山ホテル 平成12年4月7日
 - * 「津山の歴史について」津山観光センター 平成13年1月28日
 - * 「津山城引き渡し」岡山国際交流センター 平成13年3月6日
 - * 「津山城引き渡し」津山市総合福祉会館 平成13年3月11日
 - * 「森忠政書簡をめぐって」津山郷土博物館 平成13年3月15日
 - * 「『津山学ことはじめ』の世界」津山国際ホテル 平成13年4月23日
 - * 「津山の城と城下町」津山市総合福祉会館 平成13年5月31日
 - * 「津山藩主 松平齊民」岡山県生涯学習センター 平成13年7月6日
 - * 「津山の城と城下町」作業東町農村環境改善センター 平成13年9月19日

- * 「津山城の御殿と櫓」津山市総合福祉会館 平成13年10月24日
- * 「津山の城と城下町」津山信用金庫林田支店 平成14年1月24日
- * 「津山の歴史について」津山観光センター 平成14年1月27日
- * 「津山の城と城下町」津山郷土博物館 平成14年3月5日
- * 「津山の城と城下町」津山市役所 平成14年3月15日
- * 「津山の城と城下町」佐良山公民館 平成14年3月26日
- * 「城下町の経済と商人」津山信用金庫中央支店 平成14年4月24日
- * 「森家断絶」鶴山館 平成14年5月12日
- * 「津山の城と城下町」津山観光センター 平成14年6月26日
- * 「津山の城と城下町」津山観光センター 平成14年6月28日
- * 「津山の城と城下町」リージョンセンター 平成14年10月16日
- * 「津山城引渡し」津山市立図書館 平成14年10月25日
- * 「江戸時代の津山藩－森家から松平家へ」津山勤労者総合福祉センター 平成15年1月17日
- * 「津山の城と城下町」田邑公民館 平成15年1月28日
- * 「津山森家と松平家」田邑公民館 平成15年3月11日
- * 「津山の城と城下町」津山市役所 平成15年3月14日
- * 「森忠政書簡をめぐって」津山郷土博物館 平成15年6月28日
- * 「津山の城と城下町」瀬戸集会所 平成15年7月8日
- * 「津山の城と城下町」津山郷土博物館 平成15年8月6日
- * 「城下町の商人と職人」津山信用金庫中央支店 平成15年9月4日
- * 「津山城本丸御殿の機能と構造」田邑公民館 平成15年9月10日
- * 「森忠政と関ヶ原の戦い」津山市立図書館 平成15年10月17日
- * 「津山の城下町について」市内各地 平成16年2月7日
- * 「津山の城と城下町」作州民芸館 平成16年2月29日
- * 「津山の城と城下町」津山市役所 平成16年3月12日
- * 「津山の城と城下町」津山振興局 平成16年3月12日
- * 「津山景観図屏風と地形叢書」リージョンセンター 平成16年3月20日
- * 「城下町の話」山下地域 平成16年3月28日
- * 「津山の城と城下町」津山国際ホテル 平成16年4月6日
- * 「津山藩御絵師 楳形憲斎」太田記念美術館 平成16年5月22日
- * 「商家の家訓」勝田町民センター 平成16年6月22日
- * 「城下町形成期の地域と経済」津山国際ホテル 平成16年7月1日
- * 「江戸時代の東松原」東松原会館 平成16年7月18日
- * 「商家の家訓 その2」勝田町民センター 平成16年7月27日
- * 「城西地域の歴史」城西地域 平成16年7月28日
- * 「桶屋職人の掟」勝田町民センター 平成16年8月24日
- * 「津山松平藩の収入と支出－赤字財政のしくみ－」津山市立図書館 平成16年10月15日
- * 「津山藩の産業と経済－江戸時代の「もの」と「かむ」－」津山圏域雇労働センター 平成16年10月30日
- * 「桶屋職人の掟 その2」勝田町民センター 平成16年12月14日
- * 「森忠政書簡について」勝田町民センター 平成17年2月15日
- * 「津山の城と城下町」津山市役所 平成17年3月11日
- * 「戦国時代から江戸時代へ」津山市立北陵中学校 平成17年3月16日
- * 「津山の城と城下町」勝北文化センター 平成17年4月27日
- * 「津山城の工夫」津山総合福祉会館 平成17年5月1日
- * 「津山の城と城下町」津山国際ホテル 平成17年5月13日
- * 「津山松平藩文書について」津山郷土博物館 平成17年5月22日
- * 「津山城と城下の町並み」勝北文化センター 平成17年6月2日
- * 「津山城の御殿と櫓」おかやまふれあいセンター 平成17年6月10日
- * 「津山の城下町と往來」津山郷土博物館 平成17年6月18日
- * 「松平斉民の加増要求1」美作市かつた市民センター 平成17年6月21日
- * 「津山城と城東の町並み」津山城はか 平成17年7月1日
- * 「松平斉民の加増要求2」美作市かつた市民センター 平成17年7月26日
- * 「津山城の御殿と櫓」津山郷土博物館、津山城跡 平成17年8月10日
- * 「松平斉民の加増要求3」美作市かつた市民センター 平成17年9月27日

- * 「出雲往来と坪井の宿」津山市内西部地域 平成17年10月1日
- * 「森忠政と大坂の陣」津山市立図書館 平成17年11月5日
- * 「結城秀康と將軍秀忠」美作市かつた市民センター 平成17年11月22日
- * 「森家の歴史」赤穂市民会館 平成17年12月4日
- * 「秀忠書簡について」美作市かつた市民センター 平成17年12月13日
- * 「六地蔵と荒神曲り」林田小学校 平成18年1月20日
- * 「津山の城と城下町」津山市役所 平成18年3月10日
- * 「津山森家の歴史と津山城」津山商工会館 平成18年3月24日
- 平岡正宏 * 「津山城の発掘調査」リージョンセンター 平成11年2月6日
- * 「津山城本丸御殿の発掘調査」津山市総合福祉会館 平成12年3月4日
- * 「津山城の発掘調査」津山国際ホテル 平成12年3月28日
- * 「津山城本丸御殿の発掘調査Ⅱ」津山市総合福祉会館 平成13年3月11日
- * 「津山城の歴史と発掘調査」瀬島町民会館 平成13年9月8日
- * 「津山城の発掘調査と備中櫓の復元」津山市雇用労働センター 平成13年11月2日
- * 「備中櫓の復元整備」津山市総合福祉会館 平成14年1月28日
- * 「津山城本丸御殿の発掘調査Ⅲ」リージョンセンター 平成14年3月2日
- * 「備中櫓の復元整備をめぐる」津山市立図書館 平成14年10月27日
- * 「備中櫓の復元整備」高田公民館 平成15年1月23日
- * 「津山城の歴史」大篠公民館 平成15年4月15日
- * 「津山城の復元整備と鶴山公園」津山商工会館 平成16年10月18日
- * 「津山城の石垣普請と石切場」高知県埋蔵文化財センター 平成16年11月14日
- 行田裕美 * 「津山城下町の発掘調査」津山郷土博物館 平成9年10月12日
- * 「津山の歴史再発見」津山鶴山ホテル 平成11年8月3日
- * 「津山城跡の見学」津山城跡 平成11年8月11日
- * 「津山城の発掘調査と整備」リージョンセンター 平成13年9月19日
- * 「津山城の整備について」津山市総合福祉会館 平成13年10月31日
- * 「津山の歴史と津山城の調査」あけぼの旅館 平成14年2月2日
- * 「津山城の調査と整備について」津山高校 平成14年2月15日
- * 「史跡津山城跡の発掘調査と整備」津山国際ホテル 平成14年4月24日
- * 「津山の歴史再発見」津山観光センター 平成15年2月23日
- * 「史跡津山城跡備中櫓について」津山文化センター 平成15年10月15日
- * 「津山城石垣の刻印について」津山城跡 平成16年1月29日
- * 「津山城を歩く」津山観光センター 平成16年2月28日
- * 「津山城と備中櫓について」津山文化センター 平成16年10月27日
- * 「津山城と備中櫓について」西吉田公会堂 平成17年2月24日
- * 「史跡津山城跡と備中櫓の復元」ラヴィール岡山 平成17年6月18日
- * 「津山城と備中櫓について」津山文化センター 平成17年10月20日
- * 「史跡津山城跡と備中櫓の復元」美作大学 平成17年10月28日
- * 「津山城と備中櫓について」津山文化センター 平成17年11月23日
- * 「津山城を歩くパートⅡ」津山城跡 平成18年2月25日



津山市文化財調査報告会

8 執筆関係

この間、執筆についても意識的に津山城及び津山に關連するテーマを取り上げた。また、いくつかの連載要請にも応じた。中でも、平成12年に開始した津山市全戸配布の月刊広報誌「広報つやま」の連載記事「津山城百問録」は、第82回を経た現在（平成19年1月）も継続している。以下、執筆概要は次のとおりである。

乾 貴子

- 「文化・文政期津山藩の年頭参賀儀礼について」『年報津山弥生の里』第9号 津山弥生の里文化財センター 2002年3月
- 「津山城本丸御殿の変遷過程―御城御殿御用掛御殿の検討―」『年報津山弥生の里』第10号 津山弥生の里文化財センター 2003年3月
- 「津山松平藩の御用所について―寛政期以前―」『年報津山弥生の里』第11号 津山弥生の里文化財センター 2004年3月
- 「文化年間における津山城本丸御殿と表御門の再建過程について」『年報津山弥生の里』第12号 津山弥生の里文化財センター 2005年3月
- 「西御殿敷地の変遷について」『年報津山弥生の里』第13号 * 2006年3月

尾島 治

- 「美作の国主・森忠政公入国」近畿作州会機関誌「みまさか」第19号 1998年1月
- 「院庄にらみあいの松」* 第20号 1998年8月
- 「空前の築城工事開始」* 第21号 1999年1月
- 「城下町の建設」* 第22号 2000年1月
- 「同業同職の住む町づくり」* 第23号 2000年10月
- 「森忠政が奉納した鉄橋」* 第24号 2001年4月
- 「森忠政の情報戦略」* 第25号 2002年1月
- 「津山の大名庭園―衆楽園―」* 第26号 2002年10月
- 「御座敷を持つ御殿橋―備中橋―」* 第27号 2003年4月
- 「森忠政の最期」* 第28号 2004年1月
- 「いま学ぶもの」* 第29号 2004年11月
- 「津山城備中橋について―城郭史研究における御殿と橋―（前編）」『博物館だより』28号津山郷土博物館 2000年10月
- 「津山城備中橋について―城郭史研究における御殿と橋―（後編）」『博物館だより』29号津山郷土博物館 2001年1月

平岡正宏

- 「津山城今昔―大手門の面影―」『年報津山弥生の里』第5号 津山弥生の里文化財センター 1998年3月
- 「津山城400年」『岡山学こと始め』第3号 岡山市文化政策課デジタルミュージアム開設準備室 2004年3月
- 「史跡津山城跡備中橋 復元整備過程の一般公開」『文化庁月報』2005年11月号（株）ぎょうせい 2005年11月

行田裕美

- 「津山城今昔③―通称「大溝」―」『年報津山弥生の里』第6号 津山弥生の里文化財センター 1999年3月
- 「津山城今昔④―再建天守と博覧会―」* 第7号 * 2000年3月
- 「津山城今昔⑤―津山城の入口冠木門―」* 第8号 * 2001年3月
- 「津山城今昔⑥―時報の変遷と天守穴蔵の石段―」* 第9号 * 2002年3月
- 「津山城今昔⑦―津山城跡の保存整備と桜の植樹―」* 第10号 * 2003年3月
- 「津山城今昔⑧―堀と北門―」* 第11号 * 2004年3月
- 「津山城今昔⑨―お城山の草刈―」* 第12号 * 2005年3月
- 「津山城今昔⑩―お城の井戸―」* 第13号 * 2006年3月
- 「史跡津山城跡の整備」『イクシラ』第36号（財）津山文化振興財団 2002年3月
- 「吉備の史跡①津山城跡」『教育時報』平成17年4月号 岡山県教育委員会 2005年4月

行田裕美・白石 純

- 「史跡津山城跡出土の「作」刺印瓦をめぐって」『東京考古』第21号 東京考古談話会 2003年5月
- 「津山城瓦の粘土採取地を求めて」『森宏之君追悼城郭論集』 織豊城郭研究会 2005年7月

行田裕美・平岡正宏

- 「津山城本丸の発掘調査」『教育時報』平成14年3月号 岡山県教育委員会 2002年2月
- 「史跡津山城跡備中橋の復元整備」『教育時報』平成14年9月号 岡山県教育委員会 2002年8月

連載記事

「広報つやま」 「津山城百問録」

- | | | | |
|------|--------------------------------|-------------------------------|--|
| 加藤泰三 | 「1. 石垣の崩落と鶴山公園」 | | |
| 尾島 治 | 「2. 四百年前の津山」 | 「3. 築城」 | |
| | 「4. 芥子之間の土蔵その1」 | 「5. 芥子之間の土蔵その2」 | |
| | 「6. 津山城請取役松平若伏直明の怒り」 | 「7. 本丸御殿の玄間」 | |
| | 「8. 津山城本丸御殿の大広間一虎之間」 | 「9. 津山城本丸御殿—大書院—」 | |
| | 「10. 津山城本丸御殿—小書院—」 | 「15. 津山城への閑入者」 | |
| | 「16. 津山城への閑入者その後」 | 「17. 津山城本丸御殿—(小)料理之間—」 | |
| | 「18. 津山城本丸御殿—台所—」 | 「19. 津山城本丸御殿—居間—」 | |
| | 「20. 津山城本丸御殿—主殿—」 | 「21. 津山城のカラスと鶴」 | |
| | 「22. 国日付と津山城絵図」 | 「23. 拝領「鶴」の到着」 | |
| | 「24. 御殿の襖」 | 「25. 松平家の津山城拝領」 | |
| | 「26. 津山城の広さ」 | 「27. 「時之太鼓」の張り替え」 | |
| | 「28. 本丸御殿の七間廊下」 | 「29. 津山城惣登城—八朝—」 | |
| | 「30. 正保の津山城絵図」 | 「31. 芥子之間の面々」 | |
| | 「32. 津山城惣登城—具足間き—」 | 「33. 津山城惣登城日—御加増日—」 | |
| | 「34. 津山城惣登城日—御吉事日—」 | 「35. 津山城内の人間模様」 | |
| | 「36. 本丸御殿の武術供覧」 | 「37. 殿様の食事」 | |
| | 「38. 虎之間御庭の大陣」 | 「65. 二之丸四足門の扉」 | |
| | 「66. 江戸藩邸の若殿様御殿」 | 「67. 吉井川の「なげ」」 | |
| | 「68. 吉井川土手の陥陥修行」 | 「69. 羽柴忠政から森忠政へ」 | |
| | 「70. 藩内の酒販売」 | 「71. 津山城の嵐さらえ」 | |
| | 「72. 御用達株の行方」 | 「73. 井伊直弼と確堂」 | |
| | 「74. 山田方谷と津山」 | 「75. 育子院設置計画」 | |
| | 「76. 増見右門の憤り」 | 「77. 津山松平家の奥」 | |
| | 「78. 広瀬旭荘の津山逗留」 | 「79. 津山藩野分派の祖—狩野副学—」 | |
| | 「80. 津山藩江戸藩邸と江戸狩野派の絵師たち」 | 「81. 森忠政の広島城受け取り」 | |
| | 「82. 森忠政の川中島転封」 | | |
| 平岡正宏 | 「11. 津山城の排水システム」 | 「12. 埋もれた石垣—その一—」 | |
| | 「13. 埋もれた石垣—その二—」 | 「14. 石垣と築城伝説」 | |
| | 「39. 未完成だった？津山城」 | 「40. 津山城の築城過程1—どの部分から工事始めたか—」 | |
| | 「41. 津山城の築城過程2—天守台の謎—」 | 「42. 津山城の築城過程3—裏鉄門の謎—」 | |
| | 「43. 津山城の築城過程4—七番門の謎—」 | 「44. 津山城の築城過程5—西建されなかった裏鉄門—」 | |
| | 「45. 津山城の築城過程6—御書格6間はなぜ崩壊したか—」 | 「46. 津山城の天守1」 | |
| | 「47. 津山城の天守2—天守の瓦—」 | 「48. 津山城の天守3—天守の礎石—」 | |
| | 「49. 津山城の天守4—天守台の構築技術—」 | 「50. 津山城の天守5—C・G映像の天守—」 | |
| | 「51. 津山城備中櫓1—天守女になぜ「備中」櫓女のか？—」 | 「52. 津山城備中櫓2—棟込瓦の語るもの—」 | |
| | 「53. 津山城備中櫓3—櫓の性格—」 | 「54. 津山城備中櫓4—備中櫓の外観—」 | |
| | 「55. 津山城備中櫓5—備中櫓の内装—」 | 「56. 津山城備中櫓6—基礎工事について—」 | |
| | 「57. 津山城備中櫓7—柱のヒビのなぜ？—」 | 「58. 津山城備中櫓8—備中櫓に使用されている瓦—」 | |
| | 「59. 津山城備中櫓9—「御茶座」と「伏間」—」 | 「60. 築城の時代背景」 | |
| | 「61. 津山城のシンボル」 | 「62. 備中櫓復元の意義」 | |
| | 「63. 津山城の土俵の構造」 | 「64. 津山城五番門」 | |

※は「津山城築城400年記念事業実行委員会」所管

(註1) 津山城築城400年記念事業実行委員会「津山城築城400年記念事業報告書」2005年6月

第5部

まとめ

第1章 津山城石垣の変遷について

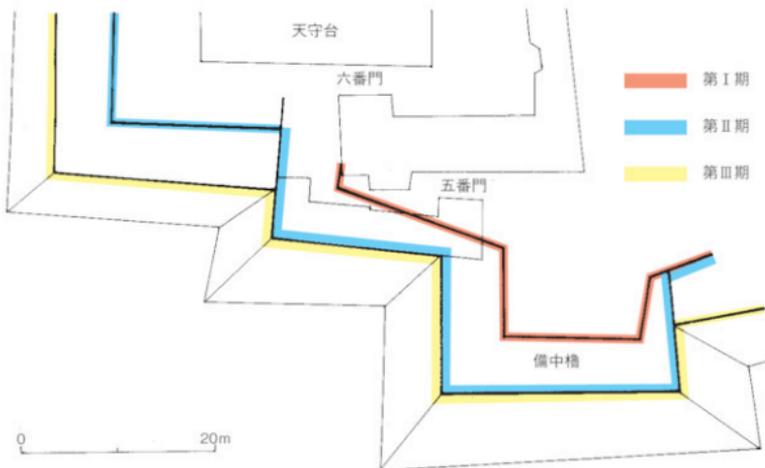
これまで津山城の石垣は、部分的に改変の手は加えられているものの、1時期で現在残されている石垣が完成時の姿であると考えられてきた。これは、これまで発掘調査履歴に恵まれなかったことに加え、津山城を描いた最古の絵図「美作国津山城絵図」に、現在の石垣の様子が描かれていることに起因するものと考えられる。この絵図は、通常「正保の城絵図」と呼ばれているもので、正保2年（1645）から3年にかけて作成されたものである。津山城の完成は、元和2年（1616）とされることから、完成から約30年後の様子を描いていることになる。



正保城絵図

この度の備中櫓を中心とした天守南半の発掘調査で、現在の石垣の内側に2時期の石垣が埋没していることが判明した。従って、津山城の石垣には図示したように現在のものを含めて最低でも3時期あることが分かった。この3時期の石垣が確認されたのは、今回の調査が初めてで、唯一この箇所だけである。従って、埋没石垣が全城にわたって存在しているか否かについては不明である。

第1期の石垣の状況については、第2次調査T-3・4、第3次調査T-1の項で、また、第2期の石垣については、第3次調査T-1、第6次調査T-4で述べたとおりである。問題はこれら2時期の石垣の所属時期である。先述したように、第3期の現在の石垣は、津山城完成の元和2年（1616）以前とすることができる。この元和2年というのは、第1章でも述べたように元和元年（1615）に公布さ



天守台南側の石垣変遷図 (S=1:500)

れた武家諸法度により、三の丸南端一体の作事が中止を余儀なくされ、築城の完成とした年である。

通常、石積み及び建造物は、本丸、二の丸、三の丸の順に上から下へ築いていくものとすれば、本丸の石垣を築いてから三の丸の石垣及び建造物が完成するまでの時間幅が、元和2年(1616)以前と言うことになる。しかし、残念ながらこの時間幅に具体的数値を与える資料は見当たらない。

従って、第Ⅰ・Ⅱ期の石垣は元和2年(1616)以前で、築城開始の慶長9年(1604)までの12年間の内の異なる2時期の所産とすることができる。もう少し踏み込んで第Ⅰ・Ⅱ期石垣の時期を特定することはできないのだろうか。『森家先代実録』によると、慶長10年(1605)、津山城において初めて大般若経の真説が行われたとされている。慶長9年(1604)春の着手から1年程の経過であるが、本丸御殿に何らかの建造物が存在したことが推測される。また、森忠政の第8子忠広は、慶長9年に美作入国時に居を構えた院庄で生まれている。しかし、次の第9子御兼は、慶長11年(1606)津山で生まれている。これらのことから、少なくとも慶長11年には忠政の居住地は、院庄から津山の地に移っていたことが分かる。では、この段階における津山の居住地とは何処になるのだろうか。

慶長11年は、忠政が築城に着手してから2年後にあたる。この段階で想定される建造物とすれば、本丸御殿内のいずれかの建物以外考えられない。あくまでも推測の域を出ないのであるが、この段階で本丸御殿の何らかの建物が完成していたものと考えられる。これまで、日々馬に乗って院庄から津山城の工事現場に出動していた忠政は、この日から直接現地において指揮がとれるようになったのである。さて、問題の第Ⅰ・Ⅱ期の石垣は、第Ⅲ期目の多門櫓、五番門、備中櫓位置と重複する。先程も触れたが、築城開始から完成までの12年間の間に2度も櫓を建て替えるということは一般的には考え難い。従って、第Ⅰ・Ⅱ期の石垣は、本丸南西部の面積拡張の必要性から設計変更したものであり、いずれも石垣を築いただけでその上に櫓が建つことはなかったものと考えられる。

第2章 大書院の建て替えについて

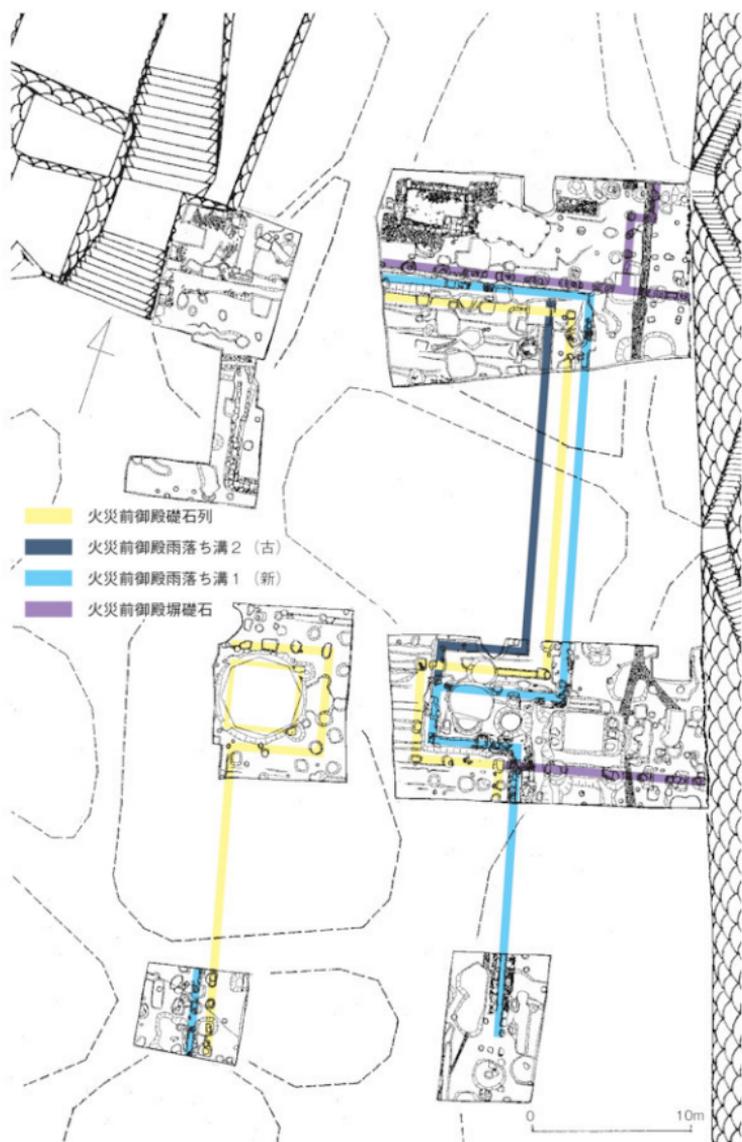
火災前の本丸御殿を描いた指図は数枚知られているが、いずれも平面構成に大きな違いは見られない。また、文献資料でも大書院が建て替えられたという記述は知られていない。

しかし、発掘調査では大書院東側及び南側東半の雨落ち溝に、新旧2時期(溝1・2)あることが確認された。この両者の溝については、第3次調査T-5の項で詳しく触れたように、溝1が新しく、溝2が古いことが確認されている。そして、指図と両者の雨落ち溝を比較検討した結果、指図に該当するのは新しい方の溝1であることも述べた。

これらのことから、大書院は東と南方向へ1度拡張されたことがわかる。その規模は、軒の出が新旧同一とした場合、東方向へ約25m、南方向へは約3mということになる。北側の雨落ち溝は作り直しの痕跡は認められるものの、位置そのものは変わっていない。西側及び南側西半部の拡張については、今回の発掘調査では確認できなかった。

では拡張はいつ頃行われたのだろうか。指図の中で、年代が特定できる最も古いものは元禄10年(1697)の資料である。この年は、森家が4代で跡継ぎなく改易となり、津山城が幕府預かりとなった際に描かれたものである。他の指図の平面構成も違いが見られないということは、これ以降に描かれたものと考えて間違いはあるまい。

従って、大書院の拡張(建て替え)は、元禄10年以前ということになる。現段階では、これ以上時期を特定する資料は見当たらない。



表向き御殿の発掘調査平面図 (S=1:300)

第3章 備中櫓の礎石について

問題の所在

備中櫓内部の発掘調査においては、礎石が用いられていたという確証は得られなかった。しかし、設計サイドは、瓦葺2階建ての建物で礎石を用いない構造は想定しがたいとの見解から、発掘面を掘り下げて礎石を新設するという設計を提示した。この設計が、史跡における建造物復元のあり方（当時の構法で史実に基づいて再現する）として、是か否かという議論を呼んだ。

発掘調査概要

(1) 調査期間

平成10年9月21日～平成11年2月23日

(2) 調査担当

津山市教育委員会 文化課主幹 行田裕美

＊ 主任 平岡正宏

(3) 櫓内部の調査概要

櫓内部の発掘調査において、確実に遺構と認定されたものは、東西及び南側の櫓台石垣、北側の基礎石列、大小の便所跡、築城期のものと思われる埋設石垣だけであった。

礎石については、数点の石材が点在したが、形状からも位置関係からも確実視されるものはなかった。また、後世の抜き取りも考慮に入れ、その痕跡を求めて精査したが、検出することはできなかった。

(4) 礎石有無の解釈について

上記の事実関係から考えられることは、次のどちらかである。

(i) 当初から礎石は用いられていなかった。

(ii) 礎石は用いられていたが、後世何らかの理由で全て抜き取られた。

礎石有無の解釈について、礎石を用いない工法も検討したが、本櫓のように2階建ての建物で礎石を用いない例は考えられないという設計サイドの意見も踏まえ、(ii)の考え方を採用した。

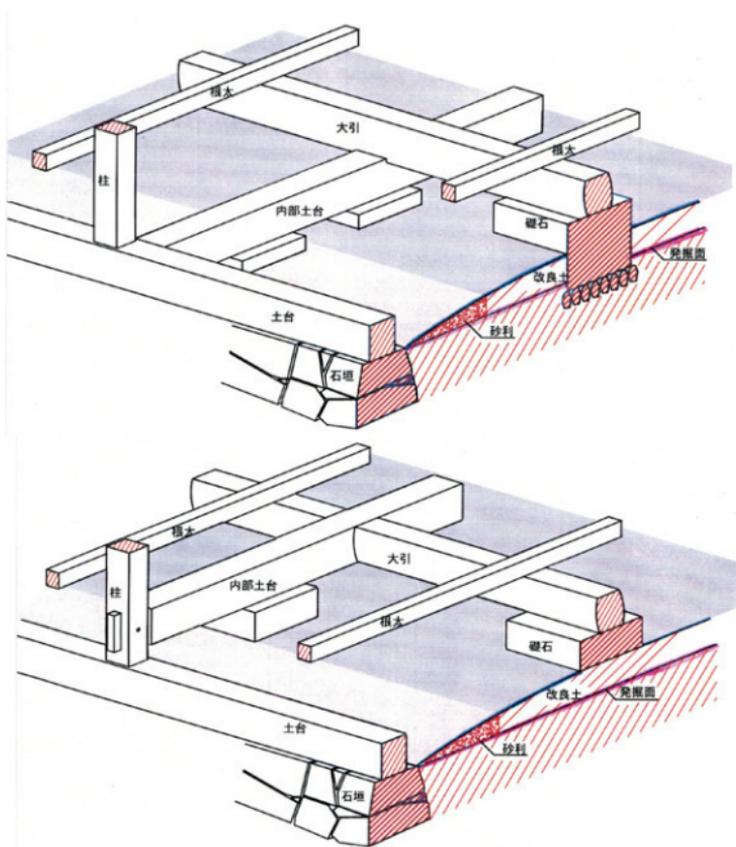
そして、礎石のレベルは、据付のためのグリ石を伴う地業痕跡が認められなかったことから、石垣天端面より上位に位置していたものと推論した。

設計管理上の問題点

津山市には城郭建築を専門とする技師がいないため、復元設計は専門的知識を有する(株)文化財保存計画協会に委託した。同社が作成した設計では、土台レベルを揃えるため礎石を石垣天端とほぼ同高に据え、その結果、基礎地業は発掘面より掘り込んで施工する形となっていた。これは上記の発掘面見解と異なるもので、発掘面の解釈について設計段階における意見交換が不十分であったと言わざるを得ない。

施工管理についても、同じ理由で同社に委託した。その結果、礎石を据付ける際に発掘面の一部を掘削することとなったが、伝統構法に従った設計との説明を受け、市としても施工を容認した。

この時点でも、発掘面内に礎石の抜き取りが確認されなかった事実を重視し、それを改めて設計に反映することができなかった点については、文化財保護担当当局として、率直に非を認めざるを得ない。



当初設計 (上) と変更設計 (下)

設計施工の変更

施工上で文化庁および史跡津山城跡整備委員会から問題の指摘を受け、「破損したら元の状態に復旧する」という文化財保護の原則に従い、先に設置した礎石は全て取り除くこととした。掘り方は埋め戻し、地下を掘削しない工法、すなわち礎石の厚さを薄くし、改良土層の上に直接載せる形式に変更した。これにより、礎石据付けに伴う地下の掘削という行為は回避されることとなったが、逆に、建物の高さが決まっているため基礎部分の構造変更を余儀なくされた。

以上、これまでの事実関係を整理すると、上図（第12回整備委員会資料）のとおりである。変更後の基礎形式がかつての備中槽において実際に採用されていたか否かは定かではなく、あまり類を見ない形式となっていることも事実である。しかし、復元整備という行為に対し、地下の掘削を伴わないという文化財保護の観点から導き出した1つの回答として、今後の事例の参考になればと思い、紹介した。

(裏表紙解説)

往時の津山城（火災前）をコンピューターグラフィックスで再現し、現在の市街地空中写真に重ねたものである。西に張り出した地形を巧みに利用した本丸、二の丸、三の丸の縄張り構成が良く理解される。

史跡 津山城跡 保存整備事業報告書Ⅰ

平成 19 年 3 月 31 日 発行

編集・発行 津山市教育委員会 ©

岡山県津山市山北 520

T E L 0868 - 23 - 2111

印刷 二葉

